

科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第22回）
議事要旨

日 時 平成28年12月5日（月）13:00～15:00

会 場 日本学術会議 5-C（2）会議室

出席者 相原委員長、永井副委員長、苧阪幹事、岩本委員、嶋田委員、柴山委員、高原委員（スカイプ参加）

陪 席 日本学術会議事務局
（石井参事官、松宮参事官補佐、漆畑上席学術調査員、大橋参事官付、鈴木参事官付、大庭参事官付）

配布資料：

資料1 第21回議事要旨（案）

資料2 提言（案）等

参考資料1 分科会委員名簿

参考資料2 第23期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関する
マスタープラン策定の方針

3. 議 題

1) 前回議事要旨（案）の確認

前回の議事要旨案は原案通り承認された。

2) 提言（案）について

提言案について、委員から得られたコメントをもとに、議論が行われた。下記に決定された内容について記述する。

要旨：

・ 1. 本提言の背景：

「学術の大型施設計画・大規模研究計画（以下、「学術大型研究計画」という）」の「」内の「学術大型研究計画」を「大型研究計画」とすることとした。

- ・ 2. 「策定の方針とプロセス」：
 - ・ 表題を「策定の方針と経緯」とした。
 - ・ 3行目：「学術のビジョンや体系に立脚した大型施設計画…」 → 「学術のビジョンや体系に立脚した、各学術分野が必要とする大型施設計画…」とした。

- ・ 3. 提言の内容

以下のとおりに修正した。

本分科会は、区分 I(163 件)と区分 II(16 件)の学術大型研究計画と、区分 I の計画から選定した 28 件の重点大型研究計画からなるマスタープラン 2017 を策定した。重点大型研究計画は、学術大型研究計画の中でも特に優先順位が高く、国や地方自治体等によって予算化され、できるだけ速やかに推進されるべきである。科学者コミュニティのボトムアッププロセスによって策定されたマスタープラン 2017 が、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に有効に活かされるよう提言する。

提言本文

1. 本提言の背景と目的

下から 2 行目：「国及び自治体の」を「我が国の」に変更する。

2. マスタープラン 2017 の策定の経緯

(1) 学術大型研究計画策定の経緯：

「区分 II の応募提案については、全ての提案を学術大型研究計画とし」を「区分 II の応募提案については、全ての提案を学術大型研究計画として選定し」とする。

(2) 重点大型研究計画策定の経緯：融合領域からの選定結果を追加することとした。

その他要旨と同様の修正。

表：表 1－表 6 までについて、大型施設計画と大規模研究計画に分けて表示されていることについては、議論の結果、それぞれ 1 つにまとめ、大型施設計画と大規模研究計画がわかるように欄を設けて記載することとした。

表 5 のヒアリング対象提案一覧は、議論の結果、記載することとした。

上記の変更について、分科会委員へのメールでの確認することを前提として、提言案を分科会として承認した。

また、今後の査読等対応について、分科会委員へのメールでの確認を前提とし、委員長に一任することとした。

3) 次回開催は、必要に応じて開催することとした。

今回の議事要旨について、分科会委員へのメールでの確認を前提とし、委員長一任とすることとした。